

2016年度

国語

(問題)

<H28102081>

注意事項

- 一 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 二 問題は2～7ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 三 解答はすべて解答用紙の所定欄に、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 四 受験番号および氏名は、試験が開始されてから、解答用紙の所定欄に正確に丁寧に記入すること（左の記入例参照）。所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。
- 五 受験番号の記入にあたっては、左の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。読みづらい数字は、採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

(記入例)

57001番



万	千	百	十	一
5	7	0	0	1

(数字見本)

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- 六 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 七 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにすること。
- 八 いかなる場合でも解答用紙は必ず提出すること。
- 九 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

(大貫隆史『文化と社会を読む 批評キーワード辞典』の文章による)

(注) 「雪男とかツチノコ」Ⅱどちらも想像上の存在。

問一 傍線部 a「カテ」、傍線部 b「ゾンブシ」、傍線部 c「ショザイ」のカタカナにあてはまる漢字を楷書で記せ。

問二 空欄 A に入るもつともふさわしい言葉を、次のア～オの中から一つ選び、その記号を記せ。

ア 国民 イ 事後 ウ 社会 エ 文化 オ 民族

問三 空欄 B に入るもつともふさわしい言葉を本文中から漢字二字で抜き出して記せ。

問四 傍線部①「ネイションは、ひもじさや飢えを生み出すような、社会的な対立(例えば貧富の格差や階級・階層間の対立)」を、覆い隠してしまうものなのかもしれない」とあるが、なぜか。その理由を説明した文としてもつともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を記せ。

ア ネイションは、みんなも自分と同じだと思わせてしまうから。
イ ネイションは、現実にはある種の儀式によってしか確認できないものだから。
ウ ネイションが、実際にはいるかどうか分からない同胞を想像させてしまうから。
エ ネイションが、実際にはあるかどうか分からない共同体を現実にあると思わせてしまうから。
オ ネイションが、実際にはあるかどうか分からない政治的共同体を現実にあると思わせてしまうから。

問五 傍線部②「日本人」と言うときまずは想像上のものだからだ」とあるが、「そこで含意される「紐帯」が、まずは想像上のもの」だと考えると、なぜ「日本人」と言うとき文化的な集団のことになる」ことの「答え」となるのか。その理由を説明した文としてもつともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を記せ。

ア 「日本人」という言葉が含意する「紐帯」は、様々なメディアを通して作り出されたものにすぎないから。
イ 「日本人」という言葉が含意する「紐帯」は、日本人が個人を超えた集団としてのつながりを意味するから。

ウ 「日本人」という言葉が含意する「紐帯」は、日本国民が相互に結びつきたいという願いとは質が異なっているから。

エ 「日本人」という言葉が含意する「紐帯」は、国家と個人とが直接つながっている現実によって意味を持たなくなっているから。

オ 「日本人」という言葉が含意する「紐帯」は、不平等を解消するなどの機能を持った、国家の権力に裏付けられた制度を含まないから。

問六 傍線部③「日本人」では、どうやらダメなのだ」とあるが、なぜか。その理由を説明した文としてもつ

ともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を記せ。

ア 「日本人」は、同胞愛を表す言葉だから。

イ 「日本人」は、曖昧な意味しか持たない言葉だから。

ウ 「日本人」は、文化的な側面を表す概念にすぎないから。

エ 「日本人」は、垂直の対立軸を見えにくくしてしまうから。

オ 「日本人」は、儀式のあとに見いだされる概念に過ぎないから。

問七 傍線部④「日本国民」では、どうやらダメなのだ」とあるが、なぜか。その理由を説明した文としても

つともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を記せ。

ア 「日本国民」は、社会的な集団だから。

イ 「日本国民」は、バラバラな集団だから。

ウ 「日本国民」は、団結することが苦手だから。

エ 「日本国民」は、想像の共同体にすぎないから。

オ 「日本国民」は、さまざまな制度と結びつくから。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

読書というと、本を読むことが読書だと考えられています。読んでこそその本というのは確かですが、読む読書が、読書のすべてなのではありません。読まない読書もまた、本来はとても重要な読書だからです。

読まない読書というのは、読む前の読書ということです。読む前に、その本が目の前になければ、その本を読むことはできません。読もうにも、目の前にない本は読むことができないからです。読まない読書というのは、ですから、「読む」ということの前に、「本がここにある」ということの大事さを受けとめるということです。

読書というのは、本とどう付き合うかということです。

A

読む読書ばかりが、つまり、情報としての

読書ばかりが優先されるようになってきて、いま、損なわれてきている、崩れてきていると感じるのは、本とどう付き合うか、それぞれの、本との付き合い方の流儀です。

何を読むかではなく、どこで、どんな時間に、どんな姿勢、どんな気分で読むか。本を読むということは、本来そういう自分の流儀をまもる、確かめるといふ性質をもつものでもあったはずだし、あるはずで、その意味で、もつとずつと考えられなければならないのは、本という文化のそもそものありようなのではないでしょうか。

本という文化をつくり、ささえてきたのは、**①本のつくってきた様式**でした。

B

紙の本がつくってきた「綴じる」という技術が生んだ様式。その「綴じる」という様式は、読ま

ない読書、読む前の読書、「本がここにある」ということの大事さというものを、途方もないほどゆたかにして、いわば本の世界のゆたかな腐葉土をつくってきました。そのようにきちんと「綴じられた」確かな本があつて、読書の世界はゆたかな **②シユウ穫**の季節をかさねてきました。

あるいは、本の「かたち」です。どんなかたちだろうと本は本、なのではありません。精神の容器としての本のゆたかさをつくってきたのは、いつのときも本の「かたち」でした。

本のかたちがそのまま本の世界を体现してきたということも少なくありません。読まない読書、読む前の読書、「本がここにある」ということの大事さというものを、途方もないほどゆたかにしてきたのも、本の「かたち」です。本の記憶というものをいつでも確かにしてきたのも、本の生まれた時代の空気をしばしば鮮やかにのこしてきたのも、本の「かたち」です。

活字、数字、書体、色、余白、紙。読む前の読書というものを可能にしてきたものは、「本がここにある」ということを、わたしたちの目の前に示してきた、こうした本を本たらしめてきた一切のものです。

せんだつて、わたしは『本を愛しなさい』という小さな本を出しました。書名の「本を愛しなさい」というのは、わたしがそう言ったものではありません。「本を愛しなさい」と、ある日わたしが目の前の本に言われた。それを書名にした本です。そのとびらに、短い詩を書きました。

本を愛しなさい、と

人生のある日、ことばが言った。

そうすれば百年の知己になる。

見知らぬ人たちとも。

風を運ぶ人とも。

死者たちとも。

餅こたまとも。

はじめに本があつて、読書はそれから始まる。

本というもの、そして言葉というものは、**③もともと誰かの所有に帰するものではない。**わたしはそう考えてい

ます。本というものは、言葉というものは、本来、所有するものでなく、預かり物です。書くことが言葉を自分の手に預かることであるように、本を求めるというのは、お金を出して、その本を気のすむまで預かることです。本を壊して必要なところだけをわがものにするまで読むという人がいます。読む本の**b**カ|所に二色三色のボールペンで線引きし徹底して読むという人もいます。それはわたしは違うと思う。自ら本を壊したり、本に消せない線を引いたりすれば、自分からすすんで預かった本を、後の時代に返せなくなる。

そうでなく、前の時代、同時代から預かって、そうして、次の時代に返す。③読まない読書というのは、本は読んで終わり、なのではないということです。手わたされて、手わたしてゆく。手わたしの、そのつながりのなかに、じぶんを置くということです。

言葉というものは、そして本というものは、そうやって繰りかえし手わたされていて、再生されるべきものは繰りかえし再生されてゆく。読書というのはそういうものなのだろうと、わたしは考えています。

(長田弘『なつかしい時間』による)

問八 傍線部 a・b のカタカナ部分の漢字と同じ漢字を用いる熟語を、次のアイオの中から一つずつ選び、その記号を記せ。

a	ア シュウ悪	イ シュウ囲	ウ シュウ逸	エ シュウ支	オ シュウ撃
b	ア カン当	イ カン寛	ウ 遣カン	エ 印カン	オ 栄カン

問九 空欄 **A**・**B** に当てはまる言葉としてもつともふさわしいものを、次のアイオの中から一つずつ選び、その記号を記せ。

A	ア そして	イ だから	ウ けれども	エ ところで	オ あるいは
B	ア あたかも	イ たとえば	ウ しかし	エ とはいえ	オ それゆえ

問十 傍線部①「本のつくってきた様式」とはどのようなものか。本文中の言葉を二つ以上用いて、三十字以内(句読点を含む)で説明せよ。

問十一 傍線部②「もともと誰かの所有に帰するものではない」とはどのようなことか。その説明としてもつともふさわしいものを、次のアイオの中から一つ選び、その記号を記せ。

- ア すべてを読みおえて自分のものにしてしまうのではなく、読まずに預かっておくべきだということ。
イ 「本がここにある」ことの大事さを受けとめて、その「かたち」を愛でることが大事だということ。
ウ 必要などころだけわがものにするため本を壊すのではなく、線を引くだけにすべきだということ。
エ 読んで終わりではなく、繰り返し再生し、しっかりと自分のものにすべきだということ。
オ 預かって次の時代にわたしていく連鎖の中の一時的な保管にすぎないということ。

問十二 傍線部③「読まない読書」の説明としてふさわしくないものを、次のアイオの中から一つ選び、その記号を記せ。

- ア 本を目の前にして、本の存在自体の重要性を受けとめること。
イ 書物の存在自体をしつかりと受けとめ、軽々しくページを開かないこと。
ウ 活字、数字、書体、色、余白、紙からなりたつ本の文化のありようを考えること。
エ 本を壊したり線引きしたりせず、大切に次の人を手わたすこと。
オ 時代を超えて受け継がれてゆく書物の授受の流れの中に身を置くということ。

問七 問六 問五 問四 問三 問二 問一

B

a

b

c

<H28102081>

受験番号	万	千	百	十	一
姓					
氏名					

(所定欄以外に番号・氏名を書いてはならない)

2016年度

国 語

(解 答 用 紙)

No. 1 / 2
採点欄

(この線で二つ折りにして書きなさい)

問十二 問十一 問十 問九 問八

A

a

B

b

2016年度

国 語

(解 答 用 紙)

No. 2 / 2
採点欄